

茨城大学学報

第274号

平成19年8月～平成19年9月



校舎改修中の教育学部 A 棟

INDEX

- ◆平成19年度学校図書館司書教諭講習を開催
- ◆水戸黄門まつりに2回目の参加
- ◆KDDI茨城衛星通信センター跡の有効利用に関する協定の調印記念式を開催
- ◆第56回関東甲信越大学体育大会
- ◆「高等学校長協会等との連絡協議会」を開催
- ◆「ものづくり体験・理科工作教室」を開催
- ◆平成19年度茨城大学大学院理工学研究科博士後期課程学位記授与式を挙
- ◆「NHK県域デジタルTV放送」茨大タスクフォースだより

8月号

茨城大学総務部総務課広報係

TEL 029-228-8008

FAX 029-228-8019

◇ 平成19年度学校図書館司書教諭講習を開催

本学では、標記講習を7月23日（月）から8月10日（金）までの間、茨苑会館を会場として開催しました。

この講習は、学校図書館法第5条第3項の規定に基づき、学校図書館の専門的職務に携わる司書教諭の養成を目的とし、文部科学大臣の委託を受け茨城県教育庁と協力して開催したものです。資格取得に必要な5科目のうち、今年度は3科目を実施し、次年度は残りの2科目を実施する予定です。連日の猛暑の中、県内の現職教員32名が熱心に受講されました。



今年度の講習内容は以下のとおりです。

- 1 講習科目： 学校経営と学校図書館
期 間： 7月23日（月）～27日（金）
講 師： 桐原光明（茨城県立結城第一高等学校教諭）
吉田 昭（つくば市立中央図書館館長）

- 2 講習科目： 学校図書館メディアの構成
期 間： 7月30日（月）～8月3日（金）
講 師： 成井恵子（茨城女子短期大学准教授）
三輪 巴（前筑西市立明野図書館館長）

- 3 講習科目： 学習指導と学校図書館
期 間： 8月6日（月）～10日（金）
講 師： 桐原光明（茨城県立結城第一高等学校教諭）

◇ 水戸黄門まつりに2回目の参加

8月4日（土）に水戸市内で開催された「水戸黄門まつり市民カーニバル」に昨年につづき2回目の参加となり、菊池学長はじめ、教職員、学生、留学生約90名が4時間の踊りコンテストに汗を流しました。

法人化後の大学PR、学生や教職員の熱気を水戸市内に振りまこうと参加したもので、夜になっても30度を超える暑さの中、約3kmの沿道を練り歩き、今年は学生の参加が倍増し、教職員も若さに引っ張られるように大学をPRしました。

学長自ら先導役となり、6日間に及ぶ時間外練習をこなした成果は見事との評価を得ることができ、終了後は学生と教職員が共に語り、成し遂げた充実感に浸ることができました。

踊りの結果は、今年も「参加賞」に留まりましたが、昨年に比べ一回り大きくなった学生・教職員の輪が、来年に向けて更に大きくなるよう参加を誓い合いました。



カーニバルに参加する茨城大学チーム

◇ KDDI 茨城衛星通信センター跡の有効利用に関する協定の調印記念式を開催

KDDI 茨城衛星通信センターが3月に閉局したことに伴い、センター跡の有効利用を目指して、KDDI、国立天文台、茨城県、日立市、高萩市、茨城大学の6者間で、平成19年8月6日（月）に本学を会場として協定の調印記念式を行いました。

KDDI 茨城衛星通信センターは、1963年の開設で、日本初の衛星通信基地局として、ケネディ大統領暗殺という衝撃的なニュースの第一報からスタートし、我が国の衛星通信の歴史において、パイオニアとしての役割を果たしてきましたが、この度、運用保守体制の一元化のため、平成19年3月をもって閉局し、山口衛星通信センターに移管されたことを受け、関係6者間でセンター跡の有効利用の検討を進めてきました。

当日の調印記念式では、宇宙・自然科学を核とした学術研究と地域の活性化に活用するため、パラボラアンテナを電波望遠鏡として天文学研究に活用するほか、産学官による連携協議会で広大な敷地や施設を学校教育、生涯学習などの事業計画をまとめることを確認し、県北の地域振興の新たな拠点づくりを目指すこととなりました。

また、調印記念式後には、調印記念講演として観山正見国立天文台長を講師に迎え、「太陽系外の惑星探査」と題する記念講演が開催され、宇宙・自然科学を専攻する学生・大学院生、教職員が出席し、最先端の宇宙・自然科学の研究探求への新たな示唆を受け、大変有意義な講演会となりました。



有効利用を誓う6機関代表者

◇ 第56回関東甲信越大学体育大会

平成19年8月20日（月）～29日（水）の10日間、関東甲信越大学体育大会が開催されました。これは関東甲信越地区の13大学、約3,500人の学生が参加し、陸上競技、テニスなど17の種目を競い合う歴史ある大会で、今年で56回を数えます。本年度は本学が主管当番大学となり、同じく当番大学の宇都宮大学、筑波大学と共に協力しての開催となりました。

大会は、茨城県・栃木県内の施設が競技会場となり、各当番大学の学生が中心となって運営された。笠松運動公園（茨城県ひたちなか市）において行われた陸上競技（女子）では筑波大学が22年連続優勝、堀原運動公園（茨城県水戸市）において行われた卓球（女子）では新潟大学が11年連続優勝、同じく堀原運動公園において行われた剣道（男子）では茨城大学が10年連続優勝と、今年度も多くの偉大な記録が生まれた大会となりました。それぞれの競技に全力を尽くす選手の姿に、競技会場には多くの歓声がこだましました。



スタート風景

◇ 「高等学校長協会等との連絡協議会」を開催

本学では8月22日（月）に、茨城県高等学校長協会等との連絡協議会が茨苑会館において開催しました。この連絡協議会は、「茨城大学と地元高等学校相互の教育活動の改善、充実を図ること」を目的として毎年開催され、今年度は22校の県立・私立高等学校長のご出席を得ての開催となりました。

菊池学長の挨拶では本学の近況説明を行い、大金茨城県高等学校長協会長からは本学に対する希望や期待の挨拶がありました。次いで、白井副学長（教育担当）から「学生のスタート時点の学力に応じた丁寧な教育」及び「平成19年度特色ある大学教育支援プログラム（特色GP）の採択」について説明の後、意見交換が行われました。さらに、人文・教育・理・工・農の各学部長から、学部のアドミッションポリシー、教育目的、カリキュラムの特徴、今後の取組み等の説明を行いました。

質疑応答では、高等学校長から大学の目指す「大学像」、推薦入試制度、卒業者の進路状況、就職率及び大学院進学率等の質疑があり、今後の教育目標や指導方針、高大連携のあり方について共通理解すると共に、相互の教育活動の改善や充実を図ることが認識され、非常に有意義な協議会となりました。



本学の近況説明を行う菊池学長

◇ 「ものづくり体験・理科工作教室」を開催

工学部技術部主催の地域貢献行事「ものづくり体験・理科工作教室」を去る8月24日(金)に開催しました。この教室は、地域貢献の一環として毎年開催しているもので、今年は、日立市内の19の小学校から38名の児童の参加があり、ものづくりや理科工作を体験しました。

実習工場では「ペーパーウェイトを作ろう」、イノベーションルームでは「鏡の中の不思議な世界」と「プロペラモータを作ろう」の3テーマを準備し、子供達は希望のテーマに別れ、初めて体験する作業に戸惑いながらも技術部スタッフの指導を受け、文鎮、ワンダーボックス、立方体万華鏡、モータ等を作り上げた。完成させた時の子供達の顔は、ものづくりの喜びや理科への興味で輝いていました。

また、猛暑のなか指導に当たったスタッフは、気温以上に熱い子供達のものづくりへの意欲や探求心にふれ、今後もこの教室を続けていくことで、地域とのつながりをさらに深める必要性を感じるものとなりました。



実習工場でものづくりを体験する小学生

◇ 平成 19 年度茨城大学大学院理工学研究科博士後期課程 学位記授与式を挙

平成 19 年 9 月 28 日（金）、本部事務局第 2 会議室において大学院理工学研究科博士後期課程の学位記授与式を挙

行し、課程博士 9 名、論文博士 3 名の計 12 名が学位記を授与されました。
菊池学長は告辞にてこれまでの修了生たち努力に触れ、「学位記は紙一枚ではありますが、これを得るための努力は並大抵のものではありません。」と、学位を得るに至ったことを賞賛しました。また、白石理工学研究科長は「今後は修めた領域だけでなく、他の領域からの視点も考慮して研究に励んでください。」と言葉を贈りました。

学位記授与式終了後開かれた修了生と本学教職員との懇談会では、学長を始めとする役員から各々激励の言葉が述べられました。



菊池学長から学位記をうける修了生

－「NHK 県域デジタルTV放送」

茨大タスクフォースだより 8月号－

毎週木曜の18時35分から、NHK水戸放送局公開スタジオ「飛び出せ！キャンパス」のコーナーでは、本学や筑波大、東京芸術大取手キャンパスの学生が提供した映像作品が紹介され、併せて、企画・撮影にあたった学生たちが司会者とトークを行っています。

平成19年8月23日(木)・・・茨大・みと再発見－地域国際ふれあいナビの活動紹介
(人文学部人文コミュニケーション学科3年次 佐藤麻里絵さん)
Summer Jazz Live in 日立の紹介
(大学院理工学研究科システム工学専攻1年 西澤洋樹くん)

§ 茨大・みと再発見－地域国際ふれあいナビ §

私達は、茨城大学社会連携事業会の学生地域参画プロジェクトの支援を受けて、「茨大・みと再発見－地域国際ふれあいナビ from 茨大 プロジェクト」と題し、茨大の日本人学生と留学生とが、地域の方々に協力してもらいながら、茨苑祭や地域の行事に参加・取材することで、茨大や水戸の暮らしの中に再発見をすることを目的とし、体験談や再発見したことは、日本語といくつかの言語に翻訳して、茨大発の情報誌としてまとめ、地域連携と国際交流に活かすべく活動しています。スタジオでは、VTRで留学生と地域の方々の交流の様態を紹介して、私達の活動と今後の予定などを紹介しました。

§ Summer Jazz Live in 日立の紹介

7月13日(金)茨城大学工学部(日立キャンパス)第一会議室にて茨城大学Jazz研究会(日立支部)の演奏による演奏会「Summer JAZZ Live in 2007」が開催されました。この演奏会は近隣住民や高校等への工学部のPRと、本学学生・職員のリフレッシュを目的として、Jazz研究会、工学部学務、学生のボランティア・スタッフによって行われた今年初の試みです。当日は90名近くの入場があり、大盛況に終わりました。スタジオでは、演奏会やその準備などの様子を伝え、Jazz研究会、茨城大学工学部をPRしました。



写真は
大木アナウンサーと
ふれあいナビの皆さんと
Jazz研究会の皆さん

NHK水戸放送局公開スタジオにて：

左から、前列、タフロンくん、藤山さん、佐藤さん、水野さん、大木アナ
後列、紺野くん、鈴木くん、山口くん、西澤くん